



中高生とともに差別と闘う

『学びのバリエーション』

吉成タダシ (うずしおブランチ代表)



学びのバリエーション

二期最初の学年全体人権学習で中学三年生にした私からの問いかけ。

「これから新しく出会う人に、中学時代の人権学習を伝えるとすれば、あなたはどうか伝えますか。何を伝えたいですか。」

「人と関わるのが好きになれる」と答えた子に、別の子が続きます。「今のみんなの発表を聞いてたら、友達への悩みはしっかり聞いてあげて、相談に乗ってあげたり、悩みは認めてあげたりと言っていて。みんなが友達への悩みを聞いてあげるとか、そういう考えを持ってくれているのがいいなと思って。だから人権学習のいいところって、さっきの『人と関わるのが好きになれる』っていうのと僕も思うし、周りのみんなの意見を聞いて、自分ももっと頑張ろうと思えるところだと思っています。」

子どもたちを頑張らせるために、躍起になって叱咤激励することもあります。それで頑張れる子もいるでしょう。でもそれでは、叱咤激励し続ける必要がありません。必要なのは、自分で自分を動かすエンジンです。もしそれがあれば、躍起になる必要はなくなっていくます。

人の方が変わる学習

「これから出会う人に中学時代の人権学習を伝えるとするならば、僕は人の方が変わる人権学習をしたと伝えます。具体的に言う」と

人権で求められるのは、共感や受けとめる力。一番大切なのは認め合う力だと思っています。十人十色とあるように、お互いの違うところをリスペクトしたり、認めたりすることがいえると思います。最初からお互いを認め合う力を持つている人はいません。だから人権学習をして、この力をつける方法を今も勉強していると感じています。

この場で発表して意見を聞いて、そういう考え方なんだとか、そういう見方もあったのか、などの気づいてないところを気づきかけとなるので、この場において僕は楽しいです。中学校の人権で終わらせないようにしたいです。」

「みんな違ってみんないい」とは言うものの、実際に何が違うのかは、聞いてみないと分からなかったりします。それを具体的に知る場の必要性を説いてくれています。

自分を知るための学習

「自分自身を知るための学習だと言っています。いろんな人権問題を学んでいくときに、必ず自分に重ねたり、自分と対比させたりすることがあると思います。そして少しずつ自分のいいところとか悪いところとかを知っていくのだと思います。人の心を感じて、自分も喜び、感じ、そこから得られる教訓を、自分の人生に生かしていきたいと思っています。そして『人と関わるのが好きになれる』という意見ですけど、私も人権学習を通して、人と関わるのが好き

きになれたなと思って。こういう全体人権学習とか、人権ことも塾だったり、中学生集会だったりとか。人権学習は堅苦しいことばかりじゃないんだって伝えるかなと思います。」

自分を深く見つめ、考える歳頃です。そこで他者について知って、自分を知っていくのだと思っています。その過程がなければ、自分勝手な自己完結に陥ってしまいう可能性もあります。そうならなための学習だということです。

知識の使い方を考える学習

「私が伝えたいのは、私たちの学校がやってきた人権学習で学んだのは、国とか世界とか、そういう規模の重い問題だけじゃなくて、自分たちの悩みと向き合ったり他の人の悩みを聞いて、『あ、これ自分も同じだな』って、学年のみんなと心をつなげられる学習をしてきたよっていうことを伝えたいです。あと、私がもう一つ伝えたいのは、人権学習でももちろん知識は必要だけど、それをどう使うか、その知識をいい方に使うのか、悪い方に使うのかを考えると、どうやっていい方向に向かっていくかを考える力が大切ということ伝えたいなと思います。」

知識は必要ですが、それが常に善として利用されるには限りません。悪用されることだってあります。それを今の自分たちの段階として考える習慣性をつけておく必要を伝えてくれています。

人を知ること

大事さを学ぶ学習

「私は三年間人権学習する間で、自分の語ることと人の語っていることを聞いて、人の気持ちを知らることが大切ということを何回も感じましたし、みんなが発表しているのを聞いて、自分も考えることとか勇気づけられることが多いので、これから新しく出会う人に伝えたいことは、まず相手のことを知ることが大事だということを知りたいと思います。また『人と関わるのが好きになれる』っていうので、私はもともと人としてやるのが好きだけど、人権学習をするようになってから、人のことを知るのが怖くないとか、自分のことを言っても受け容れてもらえるので、人と関わるのがもっと楽しくなりました。」

実にバリエーションに富んでいると思います。人それぞれの捉え方が違うし、その表現の仕方の違いにも驚かされます。これが、みんなが語り合う人権学習の醍醐味です。

子どもたちはこの後、中学校生活最後の学年全体人権学習に挑みます。その様子は次号で紹介しますが、それが皆さんに読まれる頃は、ちょうどこの子たちが卒業した後になります。私はきっと、寂しい思いをしていることでしょう。でも、この子たちが進んでいった先で、また新しい何かが起こると思いたいし、そう信じたいと思います。